

## 8. 水産情報統合発信事業

増谷龍一郎

### 目的

本県沿岸・沖合域を含め、統一した漁海況情報及び試験研究成果を判りやすく紹介し、情報提供の充実、拡大をはかる。

### 方法

- ①海洋観測結果、試験研究成果、水産試験場業務について、漁業協同組合等の漁業関係施設ならびに水産事務所等の県関係施設に大型ポスターを設置する。また、合同発表会、大地と海のフェスタ、境港水産祭り等に大型ポスターを展示する。
- ②水揚げ情報、衛星画像、試験操業情報、魚群情報等をFAX等で情報提供する。
- ③海況及び浮魚類、底魚類、イカ類の漁況並びに今後の動向について境港漁海況連絡会議を年2回、12月及び3月に開催する。3月の会議では懸案及び話題となっている分野の専門家を講師として招聴し、講演会を同時に開催する。沖合底魚の漁況及び今後の動向について、解禁前の8月に現場での説明会を実施する。沿岸イカ類の漁況及び今後の動向について3月に現場での説明会を実施する。

### 結果

- ①大型カラーポスターは、漁業関係施設としては、県内13漁協（鳥取県漁協支所を含む）20カ所、県漁連2カ所、境港イカ上屋1カ所、気高町遊魚センター1カ所、境港沖合イカ釣組合1カ所の合計25カ所、県施設としては、水産事務所2カ所、県庁県民室1カ所、県庁内1カ所、海友館1カ所、水産試験場1カ所、栽培センター1カ所、夢みなとタワー1カ所、西部県民局1カ所の合計9カ所に設置し、海況情報を月1回、業務紹介及び研究成果を年間4回の計16回配布した。また、9月開催の試験研究合同発表会、10月開催の境港水産祭り、11月開催のとり大地と海のフェスタ及び網代港カニカーニバルにおいて試験場紹介等の展示を行った。
- ②境港におけるまき網及びスルメイカの水揚げ情報、栽培漁業センター取水口における水温、

隠岐島定期フェリーによるXBT観測については、旬ごとに県内漁協、各県水試、新聞社、水産研究所等91カ所にFAXにより配布した。衛星画像については適時まき網、イカ釣り関係者等に連絡し、希望者には配布した。第一鳥取丸の試験操業情報、魚群情報については適時船上から、あるいは帰港後FAXで関係漁業者に送信した。

③まき網及びイカ釣漁業を対象とした境港地区漁海況連絡会議を12月と3月に開催した。12月の会議では、2003年南下漁期における漁況・海況の見通しについて説明した。また、3月の会議では2004年北上期における漁海況の見通しについての説明を行った。さらに、独立行政法人水産総合研究センターの山田陽巳氏を講師として招き、「クロマグロの生態と資源の現状」について特別講演を行った。

沖合底曳網を対象とした沖合底曳網漁期前調査報告会を8月に鳥取県漁協網代港支所及び田後漁協において開催し、解禁前の沖合底魚類の分布状況について説明した。

沿岸イカ釣りの今後の見通しについて3月に網代港漁協及び田後漁協において説明会を開催した。